

学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年9月16日
第32号

後志地区英語弁論大会

カシムさんが最優秀賞、全道へ

9月7日、岩内高校で後志地区英語弁論大会が開催され、小樽潮陵高校から3名、本校から1名、カシム トヒードウさん（2年4組）が出場し、最優秀賞を受賞、全道大会への出場を決めた。

世界の子どもの現状

カシムさんのスピーチは、人権の大切さと、一人ひとりの小さな行動が社会を変える力を持つことを訴える内容です。

カシムさんはパキスタンで生まれ、9歳で日本に移住しました。パキスタンでは、自分と同年代の子どもたちが学校へ行けず、家事や労働を手伝っている姿を目にしました。また、食



前列右から2人目がカシムさん

Carrying My Drops of Water

Otaru Futaba Senior High School
QASIM Toubheed

Imagine waking up tomorrow and being told that you can no longer go to school. The reason? Because of where you were born, your religion, your gender, or the amount of money your family has, your dreams no longer matter.

I was born in Pakistan and moved to Japan when I was nine. The stark contrast of the two countries has helped me realize that many are not as fortunate as I am. This isn't just something I have learned from books or the news. It is something I have witnessed with my own eyes.

Growing up in Pakistan, my family employed housemaids and gardeners. Sometimes, they would bring their children with them to help with their work. I remember carrying my school bag and my books every morning, while children around my age carried cleaning supplies or gardening tools to help their parents. I remember playing outside while they were working.

(中略)

can choose to do the right thing. Even the smallest act of kindness can give someone hope. Around the world, victims of war and poverty are in that same fire. But if enough of us act like that tiny bird and defend human rights, we can help them experience the peace and safety we enjoy here in Japan.

That is why I want to continue to study languages, allowing me to dedicate my life to carrying my own drops of water for human rights through an international career and one day build my own orphanage to support children who are not as fortunate as I was. This is my way to carry drops of water.

As you leave here today, I hope you will remember my father's story. You don't have to change the whole world alone. You only have to carry your drops of water.

利を奪われていると述べています。特にガザなどでは、多くの子どもたちが家を追われ、食料や教育、医療へのアクセスを失っています。

また、父親から聞いたイスラム教の物語を紹介します。大火事の中で、小さな鳥がくちばしで少しの水を運び続けました。他の動物たちはその行動を笑いましたが、鳥は「火を消せなくても、自分はできることをした」と言いたい」と答えます。この話は、結果の大きさではなく、正しいことをしようとする姿勢の大切さを教えています。

自分ができる小さな一歩から

カシムさんは、自分も語学を学び、国際的な仕事や孤児院の設立を通して人権支援に貢献したいと考えています。そして最後に、「世界を一人で変える必要はない。自分にできる小さな一歩を踏み出すことが大切だ」と呼びかけています。

大会を終えて、「緊張したけど思ったよりも頑張れた」とカシムさん。全道大会でも、人権の尊重と、小さな善意や行動の積み重ねることの重要性を訴えるつもりだ。



「シンデレラ」は誰もが知っているストーリーなので分かりやすく、ロマンチックで面白みがあり、最後まで楽しんでいただけたと思います。」と音寄さん。職員室にポスター掲示しています。



2部の「シンデレラ」。主役は松本明さん（小樽商大1年）。音寄さんは左2列目中央から2人目。



1部の『エスメラルダ』より「グラン・パ・ド・ドウ」。音寄さんは左端。ソロと2人の踊りがある。

音寄琴心さん バレエ発表会で グラン・パ・ド・ドウ 初挑戦

9月27日（日）第17回小林久枝バレエスタジオ発表会が小樽市民会館大ホールで開催される。プログラムは2部構成で1部は小作品。その中の『エスメラルダ』より「グラン・パ・ド・ドウ」に音寄琴心さん（1-3）が抜擢された。3歳からバレエを始めた音寄さんは優雅なプリンセス役を演じることが多かったが、今回はタンバリンを叩きながら踊る情熱的な役に挑戦する。週5回の個人レッスンに加え、発表会のための特別レッスン（札幌から男性の方が来て踊る）にも励んでいる。

最終時
主砲 45口径46センチ三連装砲 3基9門
副砲・備砲 60口径15.5センチ三連装砲 2基9門
40口径12.7センチ連装高角砲 12基24門
機銃 25ミリ三連装機銃 ~52基156挺
25ミリ連装機銃 1基~
25ミリ単装機銃 6基6挺
13ミリ連装機銃 2基4挺



戦艦大和はなぜ有名なのか
皆さんも一度は『戦艦大和』という言葉を目にしたことがあるかも知れません。しかし、前述の通り大和型戦艦の建造は政府の厳重な対策により、国民のほとんどがその存在を知ったのは戦後になってからでした。皆さんも、ここまでの戦艦や大和の歴史などは知らなかったはず。終戦から7年目となつた1952年には、『戦艦大和ノ最期』という本（左写真は文庫版）が出版され、遂にその存在が知られるようになりました。しかし、最も人々が戦艦大

信濃

起工日	昭和15 (1940) 年5月4日
進水日	昭和19 (1944) 年10月8日
竣工日	昭和19 (1944) 年11月19日
沈没	昭和19 (1944) 年11月29日 紀伊半島潮岬沖
建造	横須賀海軍工廠
基準排水量	62000トン
全長	266メートル
全幅	38.9メートル
速力	27.0ノット (予定)
航続距離	18ノット 10000海里
馬力	150000馬力

兵装

備砲	40口径12.7センチ連装高角砲 8基16門
機銃	25ミリ三連装機銃 35基105挺 25ミリ連装機銃 40基40挺 12ミリ28連装噴進砲 12基 (予定)
搭載機	47機〜 (予定)

信濃 年表

昭和15 (1940) 年	5月4日 横須賀海軍工廠で起工
昭和19 (1944) 年	10月8日 進水式で『信濃』と命名 11月19日 横須賀海軍工廠で竣工 横須賀鎮守府に編入 11月28日 横須賀を出港 11月29日 紀伊半島潮岬沖 沈没

現在に残る戦艦大和

今年、戦艦大和の完成から85年となり、沈没からは81年が経

和の存在を知るきっかけとなつたのは、アニメ『宇宙戦艦ヤマト』だったのではないのでしょうか。当時は社会現象にもなり、宇宙の敵と戦う最強の宇宙戦艦というジャンルに人々は目を輝かせたことでしょう。テレビなどが国民の中でも普及した時代に戦艦大和を人々に印象付けるのには十分の効果がありました。その後も戦艦大和を題材とした作品は多く生み出され、戦後80年を迎えた現在に於いても広く知られる存在となりました。更に2027年にはイージスアショア代替の新型護衛艦の就役が予定されていますが、当初210メートル級の船体が予定されていたため、『令和の戦艦大和』と呼ばれています。

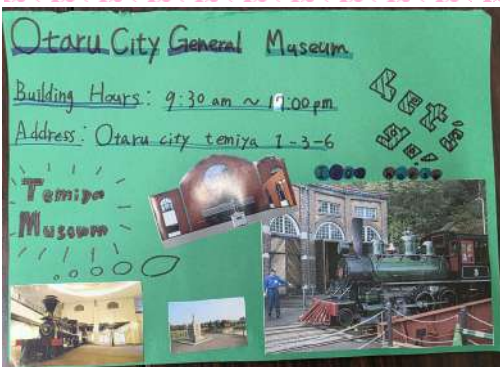


大和ミュージアム改装時の仮囲い擬人化された艦艇の装飾が施されている。左 戦艦『大和』右 駆逐艦『雪風』

過しました。『大和』は現在でも九州坊ノ岬沖の海底に沈んでいます。そんな『大和』を今へ伝えていく場所が日本各地に点在しています。その一つが『大和』を建造した広島県呉市です。呉は、かつて『東洋一の軍港』と呼ばれ、海軍の一大拠点として繁栄を続けてきました。現在も海上自衛隊の基地が置かれています。呉市内には、建造に使用された第四ドック、目隠し板など当時の物が残されており、復元された首錨の展示などもされています。呉市には海軍墓地も設置されており、ここには『大和』の石碑も存在しています。更に、『呉市海事博物館（大和ミュージアム）』では、10分の1戦艦大和の展示などがされています。本物には及ばないものの、その巨大さを体感することができます。大和ミュージアムは4月23日にリニューアルオープンを迎え、調査で判明した新たな『大和』の姿を見ることができるようになりました。大和

English Camp

小樽の観光案内を英語で



8月5日、小樽市内でイングリッシュ・キャンプが開催され、小学生がグループで小樽の観光案内（上写真が一例）を作り、実際に河周辺で案内するワークショップが行われ、杉田真梨菜さん（212）がお手伝いとして参加した。小学生の頑張る姿に刺激を受けたとい



大和波止場の入り口に設置されている戦艦大和用の『九一式徹甲弾』を模した車止め

ミュージアムの隣には『大和波止場』と呼ばれる『大和』の艦首を元にした場所や大和の46センチ主砲を削り出した旋盤、大和に置かれていた鐘をはじめとして多くの展示物があります。リニューアル工事中、本館へは入場できませんでしたが、『大和ミュージアム・サテライト』の開館や『艦隊これくしょん』とのコラボレーションで本館の仮囲いの装飾や実物大の水上偵察機『瑞雲』の展示が行われていました。他にも、大和沈没の

地である鹿児島島の慰霊碑や『大和』の艦内神社である奈良の大和神社があります。また、横須賀の記念艦『三笠』の隣にも大和用の九四式徹甲弾が展示されるなど、ひっそりと『大和』と海軍を今に伝えているのです。皆さんも今に残る『戦艦大和』と海軍の姿を探してみたいかがでしょうか。（坂東元、完）

参考文献・資料

【書籍】

戦艦大和大全（晋遊舎）
大日本帝国海軍の戦艦3D図鑑（河出書房新社）
日本海軍がよくわかる事典（PHP研究所）

【Youtube】

ティコク立体

戦史研究会

【テレビ】

NHK

巨大戦艦大和（乗組員たちが見つめた生と死）

戦艦武蔵の最期

特集「巨大」空母信濃